

あさご農業委員会だより

令和4年度の朝来市の農政について

農業者の高齢化と担い手不足などの課題を抱える中で「儲ける農業」の実現、魅力ある産業としての育成に取り組めます。以下主な事業概要を紹介いたします。



朝来市では、農業従事者の著しい高齢化や担い手不足等の課題解決、そして「儲ける農業」を実現するため農産物のブランド化など、魅力ある産業としての農業の育成に取り組む、新たな担い手確保を目的とした新規就農希望者研修補助事業、効率的な農業生産活動や地域活性化に向けた夜久野高原の開発及び整備、有害鳥獣対策を実施

耕作放棄地の増加を招いています。耕作放棄地の発生防止、水源の確保、洪水防止などを目的に実施します。



【多面的機能支払交付金事業】
農業者を中心とした活動組織の健全向上活動の実施に対し支援を行い、将来にわたり農地や農業用水路等の地域資源の良好な保全と質的向上を図ることを目的に実施します。

【中山間地域等直接支払交付金事業】
中山間地域では、高齢化が進展する中で平地に比べ自然的、経済的、社会的条件が不利な地域であることが担い手の減少、

【人・農地プラン支援事業】
地域での話し合いにより、「地域を中心となる経営体」の確保、経営体への農地の集積、経営体とそれ以外の農業者を含めた地域農業のあり方等を記載した「人・農地プラン」を策定し、農地の保全を図ることを目的に実施します。

【有害鳥獣対策事業】
有害鳥獣による農林業の被害を防止・軽減すること、農業者の生産意欲の減退を抑制し、市内農林業の振興を図ります。シカ、イノシシ対策、クマ対策、小動物対策は、捕獲活動を実施します。

【特産物振興事業】
作る農業から儲ける農業を掲げて策定した「朝来市農業推進戦略プラン2019」の実現に向け、昨年度に引き続き新たな販路開拓及び生産者グループの育成に取り組みます。

【中山間地域農業農村総合整備事業】
夜久野高原地区（和田山町白井地区を含む）の水利施設の再編利用、水管理の省力化に取り組むとともに、所得向上に向けた農産物の生産拡大に取り組ま

【営農農地中間管理機構関連農地整備事業】
（夜久野高原地区）

発行
朝来市農業委員会
令和4年7月
Tel.079-672-2833
(直通)

農地法 Q&Aシリーズ (19)

SDGsにかかるQ&A
エス・ディー・ジーズ
Q SDGsで農業に関するものとはなんですか？
A SDGsとは「持続可能な開発目標」の略称で、国連加盟国193か国が2030年までに達成するために掲げた17の大きな目標があり、その中で、農業に関するものとしては、飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する「飢餓をゼロに」があります。
詳しくは農業委員会事務局にお問い合わせください。
【農業委員会事務局】Tel.079・672・2833

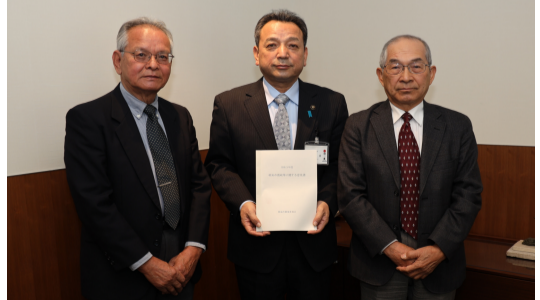
朝来市未来農業シンポジウムが開催



テーマに第1部では、あさご豊作久農園の久洋平さんほか2名の方々が、各分野での生産者グループ体制の魅力を基調講演をされ、第2部では、公益社団法人流通経済研究所の折笠俊輔さんがファシリテーターとして、パネルディスカッションが行われました。食の多様性が高まる中、農林水産業者も環境変化への対応が迫られています。新しい農業生産体制として、今注目されている、生産者グループ構築についての大きな魅力を感じました。



4月24日(日) あさご・ささゆりホールで「朝来市未来農業シンポジウム」が開催されました。「朝来市農業の今後について考える」を



藤岡市長に「担い手づくりなどの意見書」を提出しました
3月24日、本市農業委員会は、農業者の代表機関として、担い手への農地集積・集約化及び遊休農地の解消、新規参入の促進等、農村における人づくり・地域づくりをより強力に推進するための施策について意見を取りまとめ、市長に要望しました。

審議内容	3月	4月	5月	6月	計
農地法第3条 農地の売買・貸借	9	4	2	2	17
農地法第4条 農地の自己転用				1	1
農地法第5条 農地の転用売買・貸借		1	3	7	11
非農地証明申請	3	3		1	7
農業経営改善計画書の意見聴取について			1		1
農業経営基盤強化促進法による農地の貸借	5	4	1	2	25

総会での審議件数

認定農業者シリーズ16

40歳で専業農家へ



農繁期で田植え機フル稼働中

後継者への道

新井地区在住の大田垣強です。年齢は72歳です、家族は妻と愛犬ちやづけです。高校卒業後都会に出ました。が五年後に帰郷して朝来郡農協に就職しました。

平成元年に40歳で専業農家となった後は、両親と三人で葉タバコ、水稲、カリフラワー、岩津ねぎを栽培。オペレーターとして、田植え、刈取りをしていました。



芝生の手入れ作業

平成元年に40歳で専業農家となった後は、両親と三人で葉タバコ、水稲、カリフラワー、岩津ねぎを栽培。オペレーターとして、田植え、刈取りをしていました。

近頃は収益は厳しいです。田植え、刈取りは季節雇用で行っていますが、設備投資、機械の更新等に頭を痛めているのが現状です。

芝生の通常管理は一人ですが、出荷時は雇用をしています。コロナ禍で、ゴルフ場も設備投資にまでは回せないらしく、芝の出荷も最近減っています。

現在の経営内容 水稲作付け5ha、芝生60a、黒豆40a、受託作業約5haです。米、黒豆については全量JAに出荷しています。

米価も年々下がる一方で米作の見通しが立たないのが現状です。受託の面積も年々減少傾向にあつて最

環境にやさしい 農法を目指す



嶋崎さんの自宅前で

栃原に孫ターン、昔ながらの手植え、手刈り、稲木干しを行うなど自然を身近に感じる農業を一部に取り入れ地域に溶け込み自分たちの農法を模索している二人がおります。

生野町栃原地区在住の嶋崎幹太さん(31歳)望さん(35歳)を取材させていだきました。神戸育ちの幹太さんは、静岡、長野で林業に携わり、ご夫婦で祖母の居られる栃原に孫ターンとして帰って来られ農業と林業に取り組んでおられます。



農業規模は？ 水稲は70aで、そのうち40aは慣行栽培で、残り30aは近所の方や友達に手伝ってもらい、有機栽培で昔ながらの苗代で手植えや手刈り、稲木干しをやっています。

農業を始めたきっかけは？ 元々田舎暮らしというものに憧れがあり、色々やりたい事が出来る暮らしをしようと思う中に農業があり、自分で食べる物を作ってみたかったからです。



環境にやさしい農法を目指す 販売や、発酵食品や、廃棄ロスを減らすための野菜の加工品もやってみたいです。今後、みそや手で作る加工品や保存食のワークショップを行い、小さな農家さんでも使えるような加工施設になれば嬉しく思います。



愛犬と鶏と共に

ある会議の後、友人から「田植え時になると川が汚れる、何とかならんか」と話がありました。私の知る限りでは除草剤散布を田植え前から田植え後にするなど環境負荷に対する配慮は進んでいますが、言われてみると肥料を含んだ濁水を流すなど環境によくないと理解はしていますが現在の農法では、友人との会話の後、政府の進める「自然との共生」「有機農業の確立」が頭に浮かんで消えました。

編集後記

農業に従事されている方は誰でも加入できます 60歳未満の国民年金第1号被保険者(国民年金保険料納付免除者を除く。)であつて年間60日以上農業に従事している方は誰でも加入できます。配偶者や後継者など家族農業従事者の方も加入できます。 家族一人ひとりの年金を！今、女性の新規加入者が増えています

農業者年金に 加入しましょう

詳しくは、農業委員会事務局、またはJAにお問い合わせください。